

転ばぬ先の…「庭じまい」



庭を維持・管理しやすくする「庭じまい」。手入れが大変な樹木を伐採したり、枝を詰めたり、更地にしたりして負担を減らす。住みながら、または空き家になった実家で行われることが多い。家じまい、墓じまいと同様、高齢社会の中で需要が増すとみられる。

(小川記代子)

管理できる範囲に

「すっきりしましたね。手入れが楽になるわ」。埼玉県川越市の一軒家。10月上旬、庭の樹木が刈られていくと、この家に住む女性78が明るい声を上げた。

家は女性の実父が約50年前に建て、庭で柿や椿などさまざまな樹木や草花を丹精して育てた。女性と夫は約20年前からこの家に住み、庭の手入れをしてきたが、最近、「脚立を立てて柿を取るのも、高い木を切るのも大変だ。今後、茂る樹木で近隣に迷惑をかけるような事態は避けたい」と思うようになった。

思いを知った近所に住む息子が、庭じまいも手がける「長尾アートガーデン」(川越市)に連絡。代表の長尾崇史さんが今年2月に作業を始め、柿や数本の樹木を伐採、残しておく樹木も刈り込んだ。



①女性宅の玄関前。作業前の状態(右)に手が入り、樹木が整えられた。埼玉県川越市(長尾アートガーデン提供)
②樹木の枝を切っていく長尾崇史さん(小川記代子撮影)

急増する空き家同様、子世代には荷が重く

空き家は年々、増え続けている。一軒家の割合が高く、庭の管理に悩まされている人は多い。

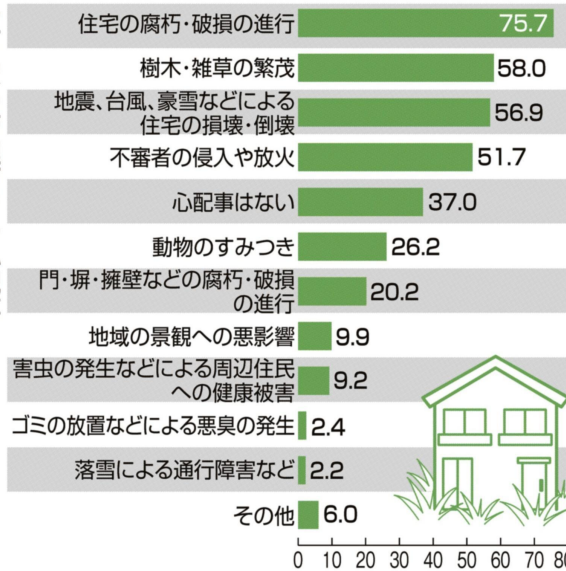
総務省の令和5年住宅・土地統計調査によると、同年の空き家は約900万戸で、30年間で2倍に増加している。

この調査で空き家を持っている人を対象にした国土交通省の「令和6年空き家所有者実態調査結果」によると、空き家のうち約9割が一戸建てだった。空き家を管理する上での心配事を聞いたところ(複数回答)、「樹木・雑草の繁茂」が58.0%で、2番目に多かった。

空き家問題に詳しいファイナンシャルプランナーの牧野寿和さんは「親世代は何とか庭を管理していても、子供世代は実家の庭に関わっていない。定期的に通って手入れをするのも荷が重くなる」と説明する。

空き家の庭を放置すると、枝が伸びたり、虫が発生したりして近隣に迷惑をかけることがある。「空き家の使途を早めに決め、そこに向けた対応を庭にもする必要がある。ある程度のお金がかかることは心得ておくべきだ」という。

※令和6年空き家所有者実態調査結果 国土交通省



空き家の管理面での心配事(複数回答)

よく知る地元密着型の業者がおすすめだ」という。

不当に高額な料金を請求されないためには、見積もり、できれば相見積もりをとって、納得できる金額でなければ依頼しないことが大切だ。

庭の状況や申込者の希望内容などによって大きく変わるもので、事前の打ち合わせは欠かせない。長尾さんは「地域を

庭の樹木には思い出が詰まっている場合が多い。「この子が生まれたときに植えた」という記念樹もある。長尾さんは、庭じまいでやむを得ず伐採した記念樹や思い出の樹木から木工製品を作る取り組みを始めた。「家族の記憶を次世代につなげていければ」と話している。

▶▶ちょっとひとこと

昭和時代のニュータウンに建った家は松やカイドウ、ツツジなどの樹木を庭に

植えたものです。

現在、近所の一戸建てを見回ったところ、そのような庭はほとんどありませんでした。すっとした樹木が1、2本とか、庭らしき部分がありませんとか。手

入れが大変だからでしょう。

ただ、樹木や花々は面倒なだけではなく、気持ちを穏やかにしてくれる面もあります。無理のない付き合い方を考えていきたいものです。(記)